

親子の千日修行

紹介者



濱口敏行氏

ヒゲタ醤油 取締役社長



村上雅彦氏

ロンバー・オディエ・ダリエ・ヘンチ・
ジャパン 取締役社長



次回は

加藤丈夫氏

(富士電機ホールディングス 相談役)
にご登場いただきます。

4月に娘が私立中学に入学した。中学受験をしたのだ。私も中学受験をしたが、苦勞をした記憶があまりない。娘の受験は最近の少子化傾向もあり、さらに安易に考えていた。

しかし実際は大変だった。調査によれば首都圏の6年生の数は2000年から2006年で7%減っている一方、受験者数は4万人から5.3万人へ32%増加し、6年生のうち、受験する子どもの比率も18%に達している。少子化を見据えて私立中学の定員に大きな変化がないため、ここ数年で競争が急速に激化していた。

娘は近くの公立小学校に通っていたが、180名超の同級生のうち6割以上の子どもが中学受験をしたらしい。これだけの子どもが塾に通っていると小学校の授業運営は難しい。担任の先生によると、同じ問題でも塾に通っている子どもはほぼ瞬時に答えが分かる一方で、初めて習う子どもに対しては1時限かけて説明する必要がある、複式学級と同じ状況になってしまうそう。両者の平均をとった授業をすると、全員が興味を失ってしまうことになりかねない。

受験に真剣な子どもは学校の宿題や活動への時間的余裕があまりない。また受験の重圧から感情の起伏が大きくなり、学校を休んで受験勉強をしたり、学級崩壊のきっかけとなったりする例が増えているようだ。実際

の教育現場は従来のモデルが崩壊し、クラスごとの状況に応じた教師の個別対応が必要になっている。大変だ。

受験をしたことで、良い面もあった。3年間家族と一緒に共通の目標に向けて過ごせたことだ。試験のときの緊張感や合格発表のどきどきを共有できたことは非常にうれしかった。

私の仕事にも触れておくべきだろう。スイスのプライベートバンクグループで、個人・財団・法人の資産運用を助言する一方、「ファミリー」の価値観に関わる助言も行っている。資産家、資本家、経営者としての役割や社会的責任をどのように引き継いでいくかを助言している。資本と経営の分離を進めることで、経営者としての役割と資本家としての役割を明確化し、同時に相続時の相続税納付額をどう確保していくかを設計するのだ。ファミリーが一体となって意思決定をしていただけると嬉しいのだが、実際は立場により認識のずれがあり非常に難しい。それぞれまったく状況が違っており、ここでも個別対応が重要な鍵となっている。

娘は入学式を迎え、生き生きとしているが、私の課題はこれからいかに娘の立場を理解し、独立できる状況を作り出していくかである。娘の入学式は私にとっては娘からの卒業式にしなければいけないのだろう。